

「まみずピア」・「アサヒビール博多工場」見学会報告

九州ステンレス流通協会
事務局 田中健二

博多駅筑紫口に、H21年10月27日に、会員28名が集合し、定刻の12時15分に貸し切りバスは出発した。都市高速道路を走り、今話題のアイランドシティーを経由し、第一の見学先の福岡地区水道企業団海の中道奈多海水淡水化センター（福岡市東区奈多 愛称“まみずピア”）に到着。ダム適地や大きな河川が少ない福岡都市圏は、過去に昭和53年、平成6～7年の大渇水を経て、北部九州の増大する水需要に対応して、平成17年に事業費408億で完成した施設です。

海水淡水化装置は全国で75ヶ所もあり、そのうち6割近くの43ヶ所が九州にあるそうです。この福岡のまみずピアは、生産能力は一日当たり5万 m^3 で日本最大の

とでした。性の方の分説明で、1見学を終え、の水道水とされた直後淡水化さ水の試飲コり、それぞれ験であった。



設備とのご案内係の女性の方が分かりやすい時間ほどの最後に普通海水淡水化の水、そして後の海一ナーがあれば貴重な体

（まみずピアの玄関にて 写真提供；産業新聞社）

第二の見学先である福岡市唯一のビール工場であるアサヒビール博多工場（福岡市博多区竹下）に向かう。

この博多工場は、創業120年を迎えるアサヒビールの全国9工場の中で、発祥の大阪吹田工場に次いで、2番目に古く、大正10年操業であるので、今年は88年目である。①映写室→②ビールの歴史→③原料展示→④製麦工程→⑤仕込み工程→⑥発酵・熟成工程→⑦ろ過工程→⑧ビン詰・缶詰工程→⑨ゲストホール（スーパードライ等の試飲）

そして、最後にアサヒビール園博多店で、懇親会が開かれ、出来たてのビールを飲みながら、ジンギスカンやしゃぶ鍋をつつきながら、名刺交換や交流にいつになく非常に盛り上がり、半日間の工場見学会は有意義に幕を閉じた。